

JAL 争議の早期全面解決をめざす 12.8 総決起集会へのメッセージ

JAL の不当解雇から今月でまる 12 年、愛媛の「支える会」は先月 27 日で結成から 10 年をむかえました。解雇争議やその支援活動が長きに至るのは名誉なことではありませんが、この間の争議団のたたかいに改めて敬意を表します。

愛媛の取り組みでは、「支える会」立ち上げ当初からの仲間や大切な支援者を幾人か失うなど困難な状況もありましたが、今日まで支援の取り組みを続けられたのは、同時期に解雇闘争をたたかった旧社保庁の分限免職撤回全厚生闘争団との連帯と協力があつたことを忘れてはなりません。毎月の宣伝、その準備、支援のオルグ、両争議団の活動は愛媛の争議団活動のまさに車の両輪でした。しかしなにより、愛媛の「支える会」の原動力となつたのは、JAL 愛媛争議団の強い決意と行動でした。「理不尽な解雇は許せない」、「必ず職場に戻る」という彼女らの熱意が、愛媛の「支える会」をこれまでけん引してきたと言えます。

誰より仕事を愛し、仲間を思う航空労働者の生きざまを否定した不当な解雇。その解雇は、そうした労働者を排除するために仕組まれたもので、到底承服することはできません。そうした思いは、50 年近く労働運動に関わり続け、10 年の配転争議をたたかった私にも通じるもので、労働者の尊厳を否定する権力の横暴は絶対に許せません。

JAL 争議は、JHU の結成、2 労組争議団の争議終結を経て、新たな段階に入ったといえます。東京都労委での取り組みをテコに、全国での支援の輪をさらに広げて、JAL 争議の早期全面解決を願うばかりです。一方で、愛媛争議団の 2 人の強い思いと、それに追いつけない支援の取り組みとのはざままで、私の自問自答は続きます。

この総決起集会を契機に、愛媛での取り組みがさらに前進できるよう、知恵と力を尽くす決意です。そして最後に、本集会への参加を強く強く求めた愛媛争議団の要請に私が応えられなかったこととお詫びし、メッセージを結びます。

2022 年 12 月 8 日

JAL 不当解雇とたたかう愛媛争議団を支える会
事務局長 重見幸春